

飼い主はどうする―識者に聞く

非常時に備え、ペットの飼い主に今できることは何か。被災動物支援や啓発に取り組む愛知県獣医師会の動物愛護・共生委員会委員長、加藤弥兵さん(66)＝写真＝に聞いた。

(聞き手・小中寿美)

―震災ではペットが飼い主とはぐれたり、他の被災者とトラブルが起きたりと、課題が浮きぼりになった。

ペット連れの人がいいた避難所は約八割といわれます。内閣府の調査では四人に一人はペットが嫌いですし、アレルギーの人もある。狭い避難所や仮設住宅では人もペットもストレスを受け、トラブルが起りやすい。行政からすれば、ペット対策は二の次。特に災害発生から三日間は、当然ながら人命救助や物資輸送が優先され、ペッ

愛知県獣医師会

加藤弥兵さん



トへの支援は得られないと思った方がいい。避難所で飼えず預けるとしても、受け入れ態勢が整つのに一週間はかかります。飼い主の目への備えが求められます。

―何から始めればよいか。

昨年十二月、飼い主不明の犬、

ケージに慣らすしつけが大切で、避難所で迷惑にならないよう、

―目への備えが求められます。

ケージに慣らすしつけが大切で、

支援なしの想定を

猫が保護されている福島県のシェルターで管理を手伝いました。期間中に飼い主に引き取られた犬が二匹いました。八カ月たってようやく再会したんです。

―災害時、ペットと一緒に避難できるとは限らない。保護された時に引き取れるよう、まず身元を示

す。普段入っていない犬や猫はとびらを開けながら中で食事させ、居心地の良い場所と思わせます。中に入れても鳴かないようになつたら、ほっぴをやってほめます。

他人と友好に接するため、家族以外の人、ペットと会わせたり、いろいろな場所に連れて行く。一社

動物のための備蓄品チェックリスト

優先順位1 命や健康にかかわるもの

- 療法食、薬
- フード、水(5日以上)
- 予備の首輪、リード(伸びないもの)
- 食器
- ガムテープ(ケージの補修など多用途に使用可能)

優先順位2 飼い主や動物の情報

- 飼い主の連絡先
- 動物の写真
- ワクチン接種状況
- 既往症・健康状態
- かかりつけの動物病院 など

優先順位3 ペット用品

- ペットシート
- 排泄物の処理用具
- トイレ用品(猫の場合は使い慣れたトイレ砂)
- タオル、ブラシ
- おもちゃ
- 洗濯ネット(猫の場合) など

※環境省資料から作成

「会化」も大切。ペットを同伴できる宿泊施設を活用して旅行するのも手です。こうしたしつけは、避難所でペットのストレスを減らすことにもつながります。物資の備えも飼い主が責任を持たなくてはなりません。犬、猫には何より水が必要。環境省が作った飼い主向けの情報はホームページで見られて参考になると思います。

ずっと我慢していた

こんなに怖い夫の顔を見たのはいつ以来だろうか。電話口で声を荒らげる光一さんの横顔を、幸さんはかたずをのんで見つめていた。

電話の相手は東京電力。これまで原発事故の賠償は幸さんの「担当」だった。だが問い合わせをするたび「担当者はいない」

「取り込んでいる」と取り合ってもらえないことが続いていた。

そんな時だった。賠償にさほど関心を見せない様子だった光一さんが「おれが電話する」と言い出したのだ。「これまでずっと夫は我慢していたんだ」。頼もしさを感じつつ、幸さんは気付かされた。

不満をため込んでいるのは光一さんばかりではない。家族が暮らす仮設住宅でも小さいなトラブルが目立つようになった。慣

いつの日か

原発1キロからの避難

—30—

れない雪かきをめぐり「あの家は協力的でない」と陰口をたたく人が出てきたのだ。

1月中旬の早朝、仮設住宅の前の道で自動車同士の事故が起きた。幸い物損で済んだが、近くで雪かきをしていた幸さんは「雪かきも手伝わずに出かけるから事故に遭うんだ」というつぶやきを耳にした。

「情けなくて、なんだか天気まで恨めしくなった」。本格的な冬を迎えた会津地方はこのところ曇りか雪ばかり続いている。

「太陽がまぶしい古里の浜が懐かしい」。無理と承知はしていてもそんな弱気が口をつく。

痛くはなわさん一家 原発事故で福島県大熊町から避難。光一さん(43)と妻幸さん(44)、次女沙也加さん(15)は愛知県豊田市で暮らした後、福島県会津若松市の仮設住宅に移った。長女梨奈さん(19)は東京で大学生生活。